

令和5年3月23日

瀬戸市議会議長 水野 良一 様

# 報告書

～ごみの減量について～

総務生活委員長 浅井 寿美

## 1 はじめに

瀬戸市のごみ排出量は平成 15 年度をピークに、平成 26 年度まで着実に減少してきた。しかし、その後は人口減にも関わらずほぼ横ばい状態で今日まで推移してきており、その結果、本市は県内でもごみ減量があまり進んでいない市という位置付けである。当総務生活委員会では、このごみの減量問題について、どのように取り組んでいくべきかを調査・研究課題とした。

## 2 調査・研究の概要

当委員会では、本市と同等規模でかつ、特徴的なごみ減量施策に取り組んでいる小牧市、江南市、半田市へ視察を実施した。

### 【小牧市】

- 1 視察日時 令和 4 年 1 月 17 日(月)
- 2 視察先 愛知県小牧市 (人口 151,222 人 令和 3 年 10 月末日現在)
- 3 視察項目 小牧市の一般廃棄物処理の現状及び課題について
- 4 視察者及び随行者 【視察者】 浅井寿美、朝井賢次、小澤勝、石神栄治、戸田由久、山田治義、白井淳 【随行者】 議会事務局議事調査係長 内藤寛之

### 【参考になったポイント】

- ・可燃ごみへの混入が特に多かった紙類と剪定枝類について、資源として排出してもらうよう分別を広報、自治会回覧、市HP、ごみ分別アプリなどを活用して周知啓発。
- ・雑紙は月 2 回から週 1 回に変更し、ビニールや金属が付着した紙類、感熱紙なども対象とする。
- ・剪定枝類は拠点回収場所も 2 か所に増やし、搬入用に公用車の無料貸し出しを実施。
- ・ごみ集積場所の剪定枝類も再資源化できるよう収集体制を整備。
- ・家庭用生ごみ処理機購入費補助金の交付(毎年 30 基～40 基)、市が配布し、その後不要になったコンポストを返却してもらい、中古コンポストとして配布。
- ・廃棄物適正処理指導員(職員)による巡回訪問の実施。
- ・家庭から排出されるごみは、4 分別 19 種類に区分し市が収集。

剪定枝の資源化、ミックスペーパーの回収を月2回から週1回に変更、廃棄物適正処理指導員による巡回訪問の実施、指導対象の3割が外国籍であり丁寧に周知されている。その結果、分別意識の高い市民の協力により、4年連続リサイクル率県下1位となった。

## 【江南市】

- 1 視察日時 令和4年1月17日(月)
- 2 視察先 愛知県江南市(人口99,780人 令和3年10月末日現在)
- 3 視察項目 江南市の一般廃棄物処理の現状及び課題について
- 4 視察者及び随行者 【視察者】 浅井寿美、朝井賢次、小澤勝、石神栄治、戸田由久山田治義、白井淳 【随行者】 議会事務局議事調査係長 内藤寛之

## 【参考になったポイント】

- ・平成10年より、1人一日当たり57gのごみを減らすことを目的に、57運動を始めた。その背景には、焼却施設の処理能力を超えるほどのごみの増加があった。
- ・事業系ごみ、家庭系可燃ごみ及び粗大・中型ごみについて、組合及び組合構成市町と連携し、適正な処理手数料(有料化)を検討することとしている。
- ・資源ごみについては委託業者による収集以外に常設の資源ごみ回収拠点・リサイクルステーションで受け入れている。
- ・剪定枝・草は平成24年から資源ごみで回収開始。直接搬入できる場所を設置し、回収量は年々増加。
- ・容器包装プラスチックは専用の回収ボックスで回収。
- ・使用できる不用品を譲渡するリサイクルバンクの活用。
- ・食品ロス削減のためのフードドライブ(平成28年から今まで14回実施)
- ・生ごみを堆肥化するための生ごみ処理機購入者への補助金(年間20基〜30基の実績)
- ・希望する地域や団体に向けてごみ減量懇談会などで分別等に関する啓発。
- ・ボランティア分別指導員養成講座開催。
- ・公共施設の紙コンテナの設置。
- ・雑紙の回収品目の拡充。
- ・市が収集するごみは、大きく「可燃ごみ」、「資源ごみ」、「埋立てごみ」、「粗大ごみ」に分別される。さらに資源ごみは、「空き缶類」、「空きビン類(4種類)」、「紙類(4種類)」、「布類」、「ペットボトル」、「トレイ」、「発泡スチロール」、「プラスチック製容器包装類」、「プラスチック類」、「特別ごみ(2種類)」、「中型ごみ」、「剪定枝・草」、「廃食用油」に細分別される。

ミックスペーパー、剪定枝や草についても分別収集の対象とし、生ごみ処理機補助などきめ細かい取り組みがされている。また、職員もごみ問題と真摯に向き合い、積極的にかかわってきたことがごみ減量の好結果につながっていると感じた。本市においても、有料化のみならず今後の取組を明確にし、より多くの市民の皆さんの理解を求める必要がある。

### 【半田市】

- 1 視察日時 令和4年10月4日（火）
- 2 視察先 愛知県半田市（人口 117,975人 令和4年9月1日現在）
- 3 視察項目 半田市のごみ処理費用有料化に伴う分別回収及びごみ減量化の現状及び課題について
- 4 視察者及び随行者 【視察者】 浅井寿美、三宅聡、朝井賢次、小澤勝、石神栄治 戸田由久、山田治義、臼井淳 【随行者】 環境課課長補佐 渡邊徳雄  
議会事務局議事調査係長 内藤寛之

### 【参考になったポイント】

- ・プラスチック製品については、令和7年から容器包装と硬質プラスチックを混載して収集し、中間処理することを検討。現在は市民が分別して回収拠点に持ち込んだ硬質プラスチックを資源として取り扱う運用として、処理委託業者へ直接引き渡す。併せて、令和4年度から新しい焼却施設の供用が始まり、硬質プラスチックの焼却処理が可能になったため、ごみステーションでの収集方法は燃やせるごみに区分することとした。
- ・枝木・草は拠点での回収・資源化事業者の工場への直接搬入。
- ・燃やせるごみではなく資源として取り扱うことができるよう、市民向け事業者向けの家庭用剪定枝粉碎機を貸出。貸出数:35基
- ・公共資源回収ステーションを都市公園の2か所の駐車場に令和元年10月から新たに設置(16品目)。
- ・生ごみ堆肥化容器等設置奨励補助事業  
生ごみ堆肥化容器:購入金額の3分の2(上限額6,000円1世帯2基まで)  
生ごみ処理機:購入金額の3分の2(上限額15,000円1世帯1基)
- 【参考】 令和3年度交付実績(世帯全体の7%に行き渡っている)  
堆肥化容器:77基 累計2,845基  
処理機:129基 累計1,088基
- ・令和3年4月有料化の導入前後で、総ごみ量・家庭ごみ一人一日当りごみ量が、大幅に減少。

令和元年度家庭系ごみ一人一日当りごみ量 578g

令和2年度家庭系ごみ一人一日当りごみ量 646g

令和3年度家庭系ごみ一人一日当りごみ量 468g

ごみ処理費用有料化について市民説明会の前から議会が積極的に関わってきたことは、その後の進捗に大きく影響していると考ええる。減量効果は数字に表れており、今後はリバウンドする傾向などをいかに抑えるか注視が必要。

### 3 せとまちトークより

【せとまちトーク】ごみの分別について

#### 【ご意見】

- ① プラスチック製容器包装の排出量が多く、月に2回では不十分。
- ② 文化や言語の違う外国籍の方に分別をどのように認知してもらうか。
- ③ プラごみをどこまで洗って出したらよいか分からない。
- ④ 汚い、時間外などごみの分別のマナーが悪い。
- ⑤ PR不足である。無関心な人がかなり居るような気がする。

#### 【課題・問題点解決策】

行政による説明不足が否めない。SNSなどあらゆる方法を駆使して無関心層や外国籍の方を含め、多くの方へのPRが必要である。特にプラスチック製容器包装の分別回収は、収集場所及び回数の増加が必要。

### 4 まとめ

本市では令和4年10月からプラスチック製容器包装の分別回収が開始され、今年9月からはごみ袋（一般廃棄物処理費用）が有料化となる。

こうした中で資源ごみの分別収集やごみ減量に対する市民意識も高まりつつある。

既に開始されているプラスチック製容器包装の分別収集により、可燃ごみの量が減少しているとの報告もあるが、一方で市民からは、月2回の収集回数を増やし、各町内の集積場所やリサイクルセンターの増設を求める声も上がっている。

本市のごみ減量を推進するためには、今後、さらに市民の協力が得られるよう施策の強化が必要である。

以上